

ビジネス系女子短期大学生における 情報倫理に関する意識調査

齋 藤 裕 美

1. はじめに

1990年代からのIT技術の急激な進展、インターネットをはじめとするコンピュータ・ネットワークの発達により、企業や学校のみならず、家庭にもパソコンが普及してきている。またインターネットに簡単に接続できる機能がOS (Operating System) に搭載されるようになってから、家庭からでもインターネットを介して相互にコミュニケーションできるようになってきた。企業だけでなく個人でも容易にWebページを開設できるようになり、当初自己紹介程度であったそれは現在、小説や写真、静止画、動画など個人の知的創作活動の発表の場となっており、それに伴って著作権の侵害などの倫理的問題も指摘されるようになってきている。

例えば、米国において、MP3という音楽データを約12分の1に圧縮する技術を用いたNapsterというファイル交換サービスについて訴訟が起こった際、Napsterにおいて利用可能なファイルの90%近くが著作権保護のあるものであったという事実¹⁾がある。また、個人のパソコン上にあるファイルを共有する仕組みであるGnutellaの場合、個人が作成したファイルだけでなく市販のアプリケーションソフトなどを共有することも技術的に可能であるため著作権侵害を助長する可能性が高い。

このような社会状況から、初等・中等教育においても情報教育が行なわれるようになり、その中で倫理的問題についても取り上げられ、コンピュータやネットワークの利用に関する倫理教育も行われつつある。

情報倫理に関する大学生の意識についての研究では、福島・宮寺・中村・横山は「インターネット利用における知的財産権と倫理観に関する考察」において、大学1年生45名への意識調査の結果を報告しており、「自己防衛意識や情

報倫理に関する認識が低いことが窺える」としている²⁾。

齋藤は大学生、短期大学生を対象に、主に著作権と個人情報保護に関する意識に焦点をあててアンケート調査を行なった結果、学生の多くはプライバシーや個人情報の保護といったことに比べ、著作権については正しい判断ができず、学生個人によるばらつきも大きいことなどを明らかにした³⁾。

小稿では、この調査対象となった大学生、短期大学生の中からビジネス系女子短期大学生の調査結果を抽出し、加えてビジネス系女子短期大学生を対象に行なった第2回調査の結果と比較、分析することで、短期大学生の情報倫理に関する意識、とりわけ著作権に関する意識の構造と特徴を明らかにしたい。

なお、小稿でいう情報倫理とは、「情報を送受信する際に守るべき道徳」をいい、「情報ネットワーク社会において、他に迷惑をかけたり、不快な思いをさせないように情報を扱うための取り決め」⁴⁾を指す。

2. 調査について

2.1 調査対象、調査日

調査対象者は、ビジネス系女子短期大学生である。調査日は、第1回調査を2002年4月に、第2回調査を2004年4月に行った。

第1回調査では、1年生59名・2年生7名の合計66名を対象に、第2回調査では、1年生24名・2年生46名の合計70名を対象に調査した。有効回答率は、第1回調査は78.8%、第2回調査は88.6%である。

第1回、第2回調査とも「情報科学1」「情報科学2」受講者を対象とした。

調査は、講義内の20～30分を利用し、アンケート用紙の質問に答えるという形式で調査した。

2.2 調査内容

アンケートは、2002年度調査については、学生の学年、性別、家庭でのコンピュータ環境などの属性を問う「予備質問A」が7問、コンピュータやインターネットなどに関する知識を問う「予備質問B」が10問、著作権に関する意識などを問う「質問」が24問の3部門41問から構成されている。

2004年度調査については、基本的には2002年度調査と同じ項目でのアンケートとしたが、「予備質問A」から性別および学科を問う質問を除いた5問を

「予備質問」とし、コンピュータやインターネットなどに関する知識を問う「予備質問B」は削除した。なぜなら、2002年度調査の分析により、コンピュータの基礎知識に関してほぼ差はなく、また知識の有無によって情報倫理に関する意識が規定されないことが明らかとなったためである⁵⁾。

著作権に関する意識などを問う「質問」24問は2002年度調査と同じ項目とし、したがって、2部門29問から構成されている。また「質問」は、著作権に関して問う質問12問のほかに、個人情報保護に関して問う質問6問、情報倫理に関わる情報技術に関して問う質問6問から構成されている。

アンケートの質問はアトランダムに並べられており、著作権とは全く関係のない情報技術に関する質問を少数ながら含めることにより、著作権や情報倫理について問うていることを意識させないよう配慮した。

3. 調査結果の分析

3.1 調査対象の特徴

調査対象となった学生群の特徴を確認したい。

まず、家庭においてパソコンを保有している学生の割合は、第1回調査では全体の約80%であるのに対し、第2回調査ではほぼ100%と増えており、同様に、家庭でのインターネット環境が整っている学生の割合は、65%から89%と大幅に増えている。また、これまでにインターネットを利用した経験のない学生の割合は、第1回調査では29%であるのに対し、第2回調査では4%と減っている。

第1回調査から、家庭にパソコンがある場合、インターネット環境も整っていることが多いことがわかっており、また、家庭でのパソコン保有とインターネット利用経験との相関があることもわかっている⁶⁾。

第2回調査では、ほぼ100%の学生が家庭においてパソコンを保有し、89%の学生は家庭からインターネットに接続できる環境にあると答えている。

第2回調査においても、家庭でのパソコンの有無とインターネット環境の有無との相関係数は $r=0.28^*$ であり、また、パソコンの有無とインターネット利用経験の有無との相関係数は $r=0.49^{**}$ であった。したがって、第2回調査対象者のほぼ100%が家庭においてパソコンを保有し、インターネットへの接続ができる環境にあるということができる。

表1 パソコンの有無とインターネット環境、利用の経験の相関係数

	パソコンの有無	インターネット環境の有無
パソコンの有無	1	
インターネット環境の有無	0.28*	1

	インターネット環境の有無	インターネット利用経験の有無
インターネット環境の有無	1	
インターネット利用経験の有無	0.49**	1

※いずれも、ピアソンの積率相関係数により求めた

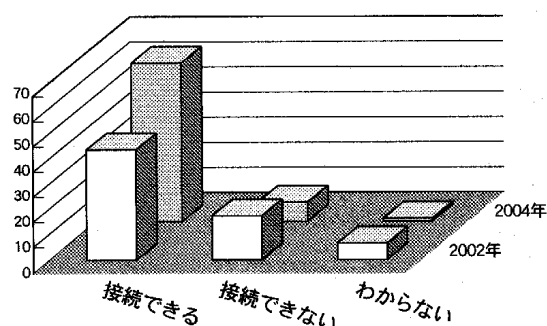
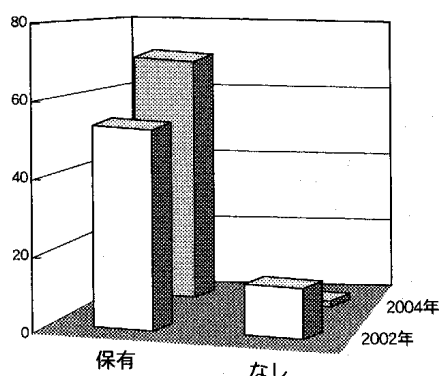


図1 家庭でのパソコン保有の有無 図2 家庭でのインターネット環境の有無

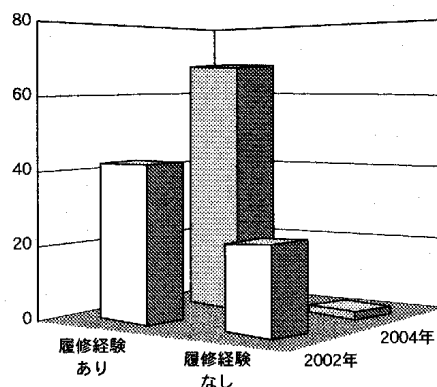
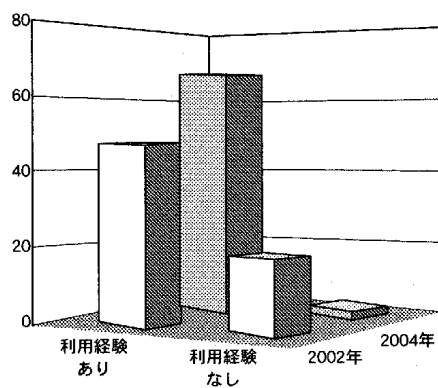


図3 インターネット利用経験の有無 図4 コンピュータ科目履修経験の有無

これらの結果から、第1回調査の対象者は、コンピュータ利用経験や家庭でのコンピュータ環境などに多少のばらつきがあるが、第2回調査の対象者は、コンピュータ利用経験などに関してほぼ均質な集団であるといえる。

さらに、第1回調査の対象者、第2回調査の対象者ともに、家庭にパソコンがあるとする学生は、家庭からインターネットに接続できる環境にあり、その

環境下でインターネットを利用するという利用形態であるといえる。

3.2 著作権に関する意識の構造

著作権に関する意識の構造を見るため、質問を得点化した上で主成分分析を行なった。その結果、2つの成分が抽出された。成分行列を表2に示す。

第1回調査、第2回調査とも、成分1の寄与率は50%を超え、成分2の寄与率も36%と、成分1と成分2を合わせた寄与率は90%近いものとなっている。このことから、著作権に関する意識は、ごく少数の成分によって規定されていることがわかる。

第1回調査、第2回調査とも、成分1は、①高価なソフトウェアの効果を試すためにコピーすることはやむを得ないか、②1本のソフトウェアを、学校や職場のネットワークで全員が使えるようにすることは問題ないか、③正規に購入したソフトウェアなら、バックアップを多数作り破損した時のために保管することは問題ないか、④会社で使っているソフトウェアを自宅で勉強するため

表2 著作権に関する意識の主成分分析

行 為	第1回調査		第2回調査	
	成分1	成分2	成分1	成分2
高価なソフトの効果を試す複製	0.69	0.60	0.84	0.47
ネットワークを利用した複製	0.93	0.24	0.90	0.38
正規購入ソフトの多数バックアップ	0.88	0.44	0.97	0.16
勉強のためのマニュアル複製	0.87	0.44	0.90	0.23
ライセンス購入による複製	0.81	0.53	0.79	0.55
使わないソフトの貸与	0.79	0.49	0.80	0.54
動作させるための改変	0.84	0.49	0.88	0.44
自由な改変	0.81	0.53	0.83	0.50
コピープロテクトのないソフトの複製	0.41	0.85	0.70	0.65
ホームページ素材の複製	0.26	0.90	0.18	0.95
長期旅行中の貸与	0.45	0.86	0.34	0.88
氏名表示と公表	0.55	0.74	0.42	0.84
寄与率 (%)	54.0	36.7	55.8	36.5

因子抽出法：主成分分析

回転法：Kaiserの正規化を伴わないバリマックス法

第1回調査、第2回調査とも3回の反復で回転が収束

に、そのソフトのマニュアルをコピーすることは構わないと思うか、⑤台数分のライセンスを購入した上で、1枚のCD-ROMから全てのパソコンにインストールしても良いか、⑥自分が使わなくなったソフトウェアを友達に貸すことは問題ないか、⑦フリーウェアを、自分のパソコン上で動作するように手直しすることは良いか、⑧フリーウェアを、自分の使いやすいように自由に手直しすることは良いかとなっており、複製権と貸与権、同一性保持権に関する意識を規定する成分と思われる。

成分2は、①自分のホームページに、他人のホームページからコピーした背景を使っても問題ないか、②あなたが長期の旅行や海外留学などをしている間使わないソフトウェアを友達に貸して欲しいと頼まれたら貸すか、③自分が作ったソフトウェアを、名前を表示した上で友達のホームページで紹介されても良いかとなっており、複製権の一部と貸与権、公表権に関する意識を規定する成分と思われる。

なお、第1回調査と第2回調査とで異なった成分として抽出された質問は、コピープロテクトのかかっていないソフトウェアならコピーしても問題ないと思うかというものである。

この結果では、著作者人格権である同一性保持権と公表権とがそれぞれ別の成分に規定されており、また、著作者財産権である複製権、貸与権と著作者人格権である同一性保持権が同じ成分に規定されていた。このことから、学生たちは著作者人格権と著作者財産権とを区別して判断しているのではないことがわかる。

即ち、複製権、貸与権、公表権、同一性保持権といった著作権に内包される個々の権利についての認識を明確に示す成分が抽出されておらず、さらに著作者人格権と著作者財産権とを区別して判断しているのではないことから、学生の意識の構造として、漠然とコピーしたり貸したりしてよい権利や手直ししてよい権利があるという認識に留まっており、それらの行為がどのような場合に許され、どのような場合には許されないのかといった明確な認識はしていないと考えられる。

3.3 著作権に関する意識

著作権に関する意識の特徴を明らかにしたい。ここでは、主成分分析による成分1に表われた複製権、同一性保持権を中心に、それら権利を侵害する行為

を肯定する場合と否定する場合とでは、どのような違いがあるのかを確認する。なお、肯定とは、その行為を良いと思うかという質問に対して「思う」「まあ思う」を選択している場合、否定とは「思わない」「あまり思わない」を選択している場合を指す。

また、著作権に関する質問について、回答を得点化した上で平均値および標準偏差を表4に示した。得点は、正しい倫理観を持っていると判断できる（以下、正解と略記）選択肢を選んだ場合を3点、正解に近い選択肢を選んだ場合を2点、不正解に近い選択肢を選んだ場合を1点、不正解の選択肢を選んだ場合を0点として得点化した。したがって平均値の最高点は3点、最低点は0点となる。

まず、複製権を侵害する行為のうち、第1回調査、第2回調査において共通して否定している行為は、①自分のホームページに他人のホームページの素材をコピーして使ってもよいかというものである。また、②コピープロテクトのかかっていないソフトウェアの複製についても、否定が上回っている。このことから、基本的に著作物の複製は禁じられた行為であるという認識は持っていることが窺える。

自分のホームページに他人のホームページの素材をコピーして使っても良いかという質問に対しては、回答の平均値が第1回調査の2.02から第2回調査では2.11と、第2回調査のほうが若干ではあるが高い得点となっており、また、標準偏差も第1回調査の1.41から第2回調査では0.93と小さくなっていることから、学生による個人差が少なくなっており、正しい判断ができる学生が増えていることがわかる。

ただし、コピープロテクトのかかっていないソフトウェアの複製については、否定している人数が上回っているものの、第1回調査に比べ、第2回調査の方が否定の回答が少なくなっており、また、平均値が2.08から1.51、標準偏差が1.51から0.88と、ともに小さくなっていることから、正しい判断ができる学生が減っていることを示している。

複製権を侵害する行為のうち、第1回調査、第2回調査において共通して肯定している行為は、①正規に購入したソフトウェアなら、バックアップを多数作って保存してもよい、②会社で使用しているソフトウェアの勉強のためのマニュアルならコピーしてもよいの2つである。

正規に購入したソフトウェアのバックアップについては、著作権に関する質

表3 著作権に関する意識を問う質問の平均値および標準偏差の結果

N：人数，X：平均値，SD：標準偏差

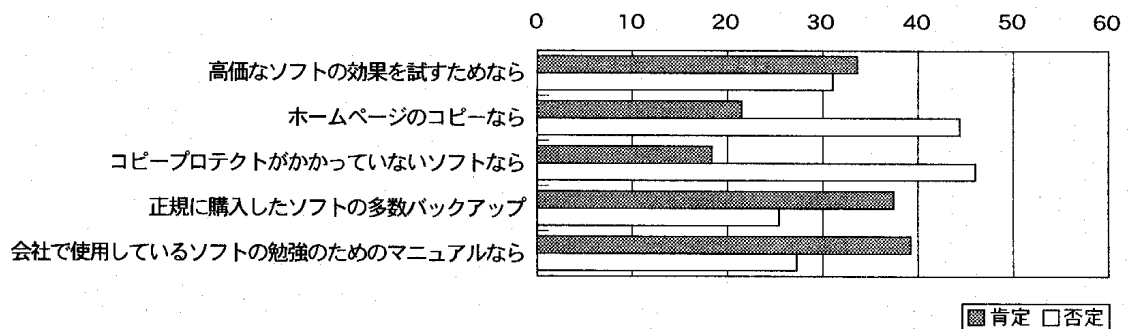
項 目	2002年			2004年		
	N	X	SD	N	X	SD
Q1 高価なソフトウェアの効果を試すためにコピーすることはやむを得ないと思いますか。	66	1.70	1.57	70	1.31	0.86
Q2 1本のソフトウェアを、学校や職場のネットワークで全員が使えるようにすることは問題ないと思いますか。	66	1.42	1.90	70	1.27	1.35
Q4 自分のホームページに、他人のホームページからコピーした背景を使っても問題ないと思いますか。	66	2.02	1.41	70	2.11	0.93
Q5 自分が使わなくなったソフトウェアを友達に貸すことは問題ないと思いますか。	66	1.23	1.03	70	1.36	1.03
Q9 コピープロテクトがかかっていないソフトウェアなら、コピーしても構わないと思いますか。	66	2.08	1.51	70	1.51	0.88
Q10 正規に購入したソフトウェアなら、バックアップを多数作り破損した時のために保管することは問題ないと思いますか。	66	1.74	3.06	70	1.04	0.73
Q13 自分が作ったソフトウェアを、名前を表示した上で、友達のホームページで紹介されても良いと思いますか。	66	1.35	1.12	70	1.20	0.90
Q15 会社で使っているソフトウェアを自宅で勉強するために、そのソフトのマニュアルをコピーすることは構わないと思いますか。	66	1.29	0.87	70	1.29	1.27
Q18 フリーウェアを、自分のパソコン上で動作するように手直することは良いと思いますか。	66	1.86	1.57	70	1.99	1.53
Q19 フリーウェアを、自分の使いやすいように自由に手直することは良いと思いますか。	66	1.55	1.33	70	1.39	1.38
Q20 台数分のライセンスを購入した上で、1枚のCD-ROMから全てのパソコンにインストールしても良いと思いますか。	66	1.89	1.57	70	1.67	0.95
Q24 あなたが長期の旅行や海外留学などをしている間使わないソフトウェアを、友達に貸して欲しいと頼まれたら貸すと思いますか。	66	1.86	0.94	70	1.97	1.01

問のうち、第1回調査では平均値は1.74と低かったものの、標準偏差は3.06と大きかったことから、正しい判断のできる学生と正しい判断のできない学生との個人差が大きく、正しく判断できる学生も存在していることを窺わせたが、第2回調査では平均値が1.04と最も低く、その上標準偏差も0.73と小さいことから、学生の多くが正しく判断できなくなっていることを示している。これは、正規に購入したソフトウェアであればバックアップを1部保存することが許されているため、多数のバックアップを作ることが違法であるという知識がないのではないかと考えられる。

会社で使用しているソフトウェアのマニュアルの複製については、第1回調査と第2回調査の平均値がどちらも1.29と同じであるが、標準偏差は第1回調査の0.87より第2回調査の1.27と大きくなっているため、学生間のばらつきが増え、正しい判断ができる学生が減ってしまったことを示している。マニュアルがソフトウェアの一種であり、著作物として保護される対象であることを知らない可能性も考えられる。

即ち、著作物の複製は違法行為であるという認識はあるものの、正確な知識を持たないために、事情や理由によっては著作物を複製しても問題ないと考え

第1回調査



第2回調査

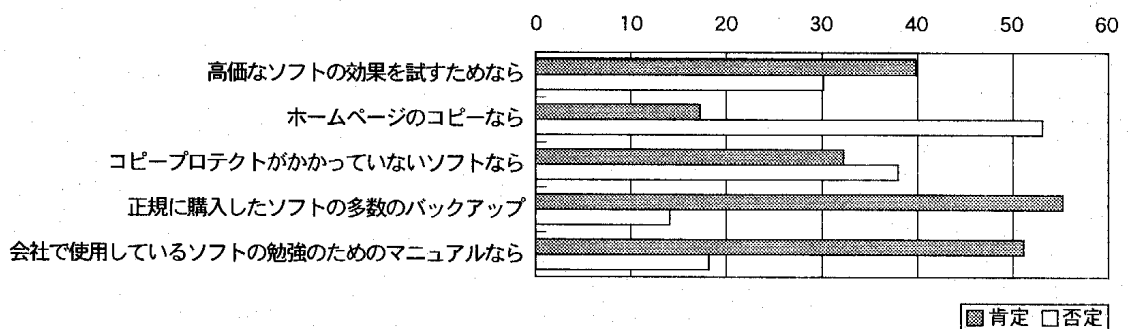


図5 複製権に関する意識

ているのではないかとと思われる。

次に、同一性保持権について見てみる。図6に示した2つの行為のうち、フリーウェアを「動作できるように改変」することは同一性保持権の中で認められているが、「自由に改変」することは認められていない。それにもかかわらず、この2つの行為についての学生の意識は、第1回調査、第2回調査ともほとんど差は見られない。

平均値および標準偏差を見ても、「動作できるように改変」する行為の平均値は、第1回調査の1.86に対して第2回調査は1.99、「自由に改変」する行為の平均値は、第1回調査の1.55に対して第2回調査は1.39である。「動作できるように改変」する行為の方が多少平均値が高いが、それほど大きくは変わらない。また、「動作できるように改変」する行為の標準偏差は、第1回調査の1.57に対して第2回調査は1.53、「自由に改変」する行為の平均値は、第1回調査の1.33に対して第2回調査は1.38である。学生間のばらつきは比較的大きい。

これは、この2つの行為の違いについて知識がないことに加え、2つの行為の間にある本質的な違いについて考察することがないことを示していると思われる。また、フリーウェアとは「著作者が著作権を留保した形で自由な配布および流通を認めたソフトウェア」で「フリーであるとはいえ著作権は作者にある形の」ソフトウェアであるが、フリーという言葉から何でも自由に使ってよい、自由に手直ししてもよいと判断した可能性もある。いずれにせよ、同一性保持権で定めている権利の内容や限度などについての知見を持ち合わせていないといえる。

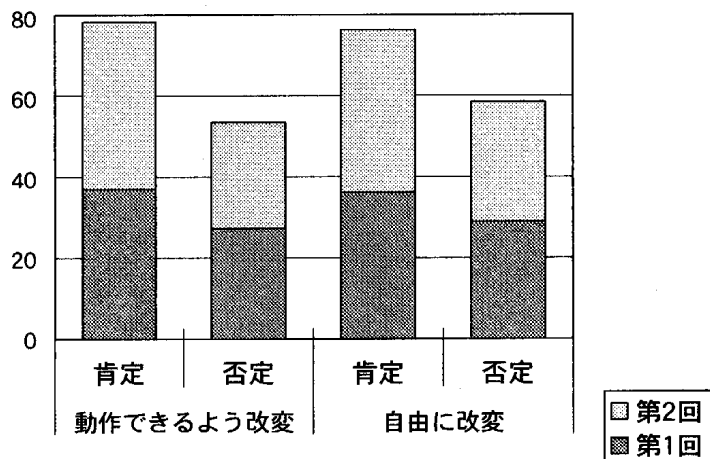


図6 同一性保持権に関する意識

4. まとめ

著作権に関する意識および個人情報保護に関する意識を中心にアンケート調査した結果をもとにいくつかの考察を試みた。

著作権に関する意識として、以下のようなことが明らかとなった。

- ① 著作権に関する意識の構造として、複製権、貸与権、公表権、同一性保持権といった著作権に内包される個々の権利が、どのような内容なのか明確な認識がないこと。
- ② 複製権については、著作物の複製は違法行為であるという認識はあるものの、正確な知識を持たないために、事情や理由によっては著作物を複製しても問題ないと考えているのではないかと思われること。
- ③ 同一性保持権については、改変が許されている場合、許されていない場合との区別ができていないこと。
- ④ 第1回調査対象者はコンピュータ利用経験や家庭でのインターネット環境の有無などに多少のばらつきがあるのに対し、第2回調査対象者はほぼ均質な集団であったにも拘らず、分析結果に大きな相違点はなく、家庭でのインターネット環境の有無などと著作権意識との間に相関は見られないと思われること。

の4点が明らかとなった。

そこから、情報倫理の教育にあたっては、行動の実際的基準だけを教えるのではなく、個人の自主的な判断に基づいて内的規制・自己統制が行える能力を育成することが必要であると思われるが、さらに、著作権に関しては、著作者人格権と著作者財産権の概要がわかること、二つの権利に内包される個々の権利、例えば複製権などについて正確な知識を持てるようにすることが必要であると思われる。

註

- (1) <http://biztech.nikkeibp.co.jp/biztech/usnews/article/20000729/02.shtm>
- (2) 福島真吾、宮寺庸造、中村直人、横山節雄「インターネット利用における知的財産権と倫理観に関する考察」『信学技法 (ET)』、Vol.98、pp.103-110、1998。
- (3) 齋藤裕美 「高等教育入門期の学生における情報倫理に関する意識調査」

『湘南国際女子短期大学紀要』、10号 pp.17-32 2002。

- (4) 日本教育工学会編『教育工学事典』実教出版、pp.323-324 (情報モラルの項)、2000。
- (5) 齋藤裕美、前掲書、pp.30-31
- (6) 齋藤裕美、前掲書、p.21
- (7) 岡本茂監修『パソコン用語事典 2003-'04』技術評論社、p.846、2003。

参考文献

- ・岡本薫『社会教育関係者のためのマルチメディア時代の著作権「人権」を守るために』、財団法人全日本社会教育連合会、2001。
- ・岡本薫『著作権の考え方』、岩波書店、2003。
- ・越智貢「『情報モラル』の教育－倫理的視点から－」『情報倫理学 電子ネットワーク社会のエチカ』、ナカニシヤ出版、2000。
- ・後藤邦夫「大学における情報倫理教育／－だれに何を、だれが教えるべきか－」、電子情報通信学会 信学技法 FACE99-48、pp.47-52、2000。
- ・土屋俊「大学における情報通信倫理研究はどうあるべきか：－学問分野としての情報通信倫理研究－」、電子情報通信学会 信学技法 FACE95-8、pp.9-14、1995。
- ・畑雅恭「大学における情報通信倫理教育はどうあるべきか」電子情報通信学会 信学技法 FACE95-7 pp.1-8 1995。

資料：情報処理に関する意識調査

予備質問（質問に対し、該当する答えの□にレを記入してください。）

1. 学年を教えてください。 ☐ 1年生 ☐ 2年生
2. 自宅にパソコンはありますか。 ☐ ある ☐ ない
3. 自宅にインターネットに接続できますか。 ☐ できる ☐ わからない
4. インターネットに接続して利用したことはありますか。 ☐ ある ☐ ない
5. コンピュータに関する科目を履修したことはありますか。 ☐ ある ☐ ない

質問（質問に対し、該当する番号を○で囲んでください。）

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| 高価なソフトウェアを買う前に、その効果や使い勝手を試すためにコピーして使ってみることはやむを得ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 1本のソフトウェアを、学校や職場のネットワークを利用して、全員が使えるようにすることは問題ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ビデオテープのダビングを繰り返すと画質は悪くなると思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分のホームページに、他人のホームページからコピーした背景を使っても問題ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分が使わなくなったソフトウェアを友達にただであげるとは問題ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| ソフトウェアのコピーを繰り返すと性能は悪くなると思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| コンピュータを使って、他人があなたの個人データを見ることは問題ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| コンピュータを使って、他人の個人データを自由にすることができるとしたら、あなたは見ると思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| コピープロテクト（コピーを防止するための機能）がかかっていないソフトウェアなら、コピーしても構わないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 正規に購入したソフトウェアなら、バックアップを多数作り、そのソフトウェアが破損した時のために保管することは問題ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| システムの管理者が、そのシステムを利用する人の個人メールの内容を見てもやむを得ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| システムの管理者が、そのシステムを利用する人がどのホームページを閲覧したかを確認するのはやむを得ないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分が作ったソフトウェアを、自分の名前が表示されているとして、友達の名前をホームページで紹介されても良いと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| スパムメールなどの宣伝・広告メールが来ないような手立てをしていない人（Q14に、そのようなメールが来るのは、手立てをしていないその人も悪いと思いますか。） | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 会社で使っているソフトウェアを自宅で複製するために、そのソフトのマニュアルをコピーすることは構わないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| フロッピーディスク1枚分くらいのデータ量の画像なら、電子メールで送っても相手の迷惑にならないと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 学校や企業、家庭で、ホームページのフィルタリング（閲覧することが好ましくないホームページを表示できないようにすること）は必要だと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| フリーウェアをダウンロードしたら、自分のパソコン上でうまく動作しない時、正常に動作するように手直しすることは良いと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| フリーウェアをダウンロードしたら、自分の使いやすいうちに自由に手直しては良いと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| パソコンの台数分のソフトウェアライセンスを購入した上で、1枚のCD-ROMから全てのパソコンにそのソフトウェアをインストールしても良いと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分のネットワークパスワードを友達に教えても良いと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| もし他人のユーザ名やパスワードを知ったとしたら、あなたは内緒でログインしてみたいと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| コンピュータウイルスを防ぐ手立てをしていない人が感染するのは、手立てをしていないその人も悪いと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| あなたが長期の旅行や海外留学などをしていて期間使わないソフトウェアを、友達に貸して欲しいと頼まれたら貸すと思いますか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

ご協力ありがとうございました。